

東日本大震災から 10 年、小中学生の津波防災意識 — 岩手県宮古市の学校アンケート調査を基に —

大棒 秀一

要 旨

東日本大震災から 10 年が経過した 2021 年 3 月 3 日、宮古市は 2007 年に宣言していた「津波防災都市宣言」をあらためて宣言して、「御霊の鎮魂を祈念し、一人の犠牲者も出さないことを誓うとともに、市民一人ひとりが津波防災に取り組み続ける先駆けの地となること」を市民に告示した。その津波防災宣言はどのくらい宮古市の未来を担う子供たちに周知されているか、今後の津波防災・減災、風化防止の取り組みの指標とするため、宮古市管内の 14 小学校 4 年生以上の児童 963 人と中学校 11 校の生徒 1004 人、合計 1967 人の生徒を対象に津波防災意識アンケート調査を行った。設問 4 項目中 3 項目の結果は想定外の低い結果で、津波常襲地域の津波防災教育の在り方、都市宣言の意義が問われる結果となった。このアンケート結果を指標として津波防災教育の充実が図られ、大きく進化する取り組みが今後展開されることを期待すると共に、子供たちが世界に誇れる「津波防災都市」として名実ともに世界のモデルとなる宮古市となることを熱望する。

キーワード：津波防災都市宣言、津波防災意識、津波常襲地域、津波防災教育

1. 背景と目的

東日本大震災から 10 年経過した 2021 年 3 月 11 日、宮古市は 2007 年に宣言した「津波防災都市宣言」を改めて告示し、津波防災に取り組む市政を市民に伝えた。

この他の自治体に類のない「津波防災都市宣言」は、未来の宮古市を担う子供たちにどのくらい浸透し、津波防災意識の向上に役に立っているだろうか。今後の津波防災・減災活動の取り組みの参考とすると共に、今後の活動の指標とすることを目的にアンケート調査を行った。

2. 方法

2.1 対象

宮古市教育委員会の協力を得て、アンケート調査を実施した。アンケート用紙は教育委員会経由で宮古市管内の中学校 11 校と小学校 14 校に直接配布された。

対象としたのは、中学校はすべての学年、小学校は 4 年生以上の児童・生徒とした。回答数は、小学校児童 963 名(4 年生 342 人、5 年生 302 人、

6 年生 319 人)と中学校生徒 1004 名(1 年生 350 人、2 年生 330 人、3 年生 324 人)であった。

2.2 アンケート項目

次の 4 点をアンケート調査項目とした。

I. 宮古市の「都市宣言」をご存知ですか

- ・知っている。 ・知らない。
- ※知っていると答えた方に伺います。
- ・知っている宣言の()に○をつけて下さい。

注 1)

- ()・いきいき健康都市宣言
- ()・津波防災都市宣言
- ()・サーモンランド宣言

II. 11 月 5 日の「世界津波の日」をご存知ですか

- ・知っている。 ・知らない。
- ※知っていると答えた方に伺います。
- ・「世界津波の日」は何で知りましたか、下記に記入してください。

III. 東日本大震災の津波以外で宮古市に襲来した津波を知っていますか

- ・知っている。 ・知らない。
- ※知っていると答えた方に伺います。
- ・知っている津波を下記に記入してください。

月日がわかれば記入してください。

IV. 災害が発生した場合ボランティアとして参加したいと思いますか

1. 思う 2. 思わない 3. わからない 無回答。

以上の4項目である。負担が少ないよう最小限の設問数にした。

2.3 アンケート各項目の目的

設問Ⅰ：宮古市の「都市宣言」については、特に「津波防災都市宣言」の周知度を計ることが目的である。知っていると感じた人には、知っている宣言に○を記してもらった。

設問Ⅱ：11月5日の「世界津波の日」については、11月5日の「世界津波の日」にあわせて内閣府防災担当が実施する“ぼうさいこくたい2021”を岩手県釜石市で開催することを踏まえ、津波常襲地域の「世界津波の日」の周知度を計ることが目的である。併せて、どのように知ったかその方法について聞いた。

設問Ⅲ：東日本大震災の津波以外で宮古市に襲来した津波を知っていますかという設問については、津波常襲地域に安全に住むための知恵として、これまでの津波の襲来がどのくらい伝わっていて、その地の風土や歴史がいかにか伝えられ活かされているかを知ることが目的である。併せて、知っている津波を記すよう求めた。

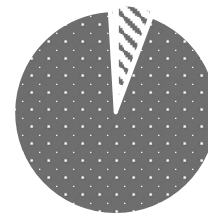
設問Ⅳ：災害が発生した場合ボランティアとして参加したいと思いますかという設問については、ボランティア元年と言われる阪神淡路大震災から26年が経ち、近未来を担う宮古市の子供たちはボランティア活動をどのように捉えているのかを知ることが目的とした。

3. 結果

回答数小学生 964名、中学生 1004名の集計結果と各項目が問いかけた目的についての見解を記す。

I. 宮古市の「都市宣言」をご存知ですか

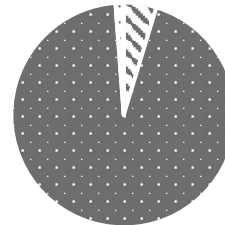
小学生



知っている ■ 知らない ∷ 無回答

- 1. 知っている … 55人 (5.7%)
- 2. 知らない … 899人 (93.4%)
- 3. 無回答 … 9人 (0.9%)

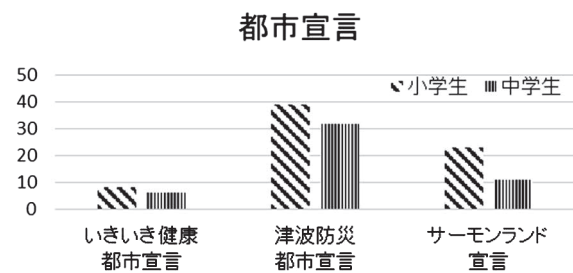
中学生



知っている ■ 知らない ∷ 無回答

- 1. 知っている … 47人 (4.7%)
- 2. 知らない … 945人 (94.1%)
- 3. 無回答 … 12人 (1.2%)

小中学生の比較



小学生の方が周知度は上回ったが、小学生・中学生どちらの周知度も高いとは言えない。

宮古市の都市宣言の周知度は低く、津波防災都市宣言の効果を感じられない結果が示された。この結果を踏まえた学習、取り組みが必要と思われる。

II. 11月5日の「世界津波の日」をご存知ですか

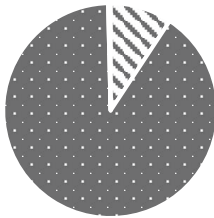
小学生



知っている ■ 知らない ∙ 無回答

1. 知っている … 61人 (6.3%)
2. 知らない … 892人 (92.6%)
3. 無回答 … 10人 (1.0%)

中学生

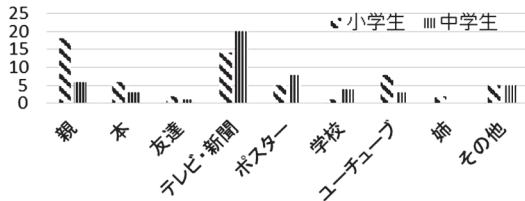


知っている ■ 知らない ∙ 無回答

1. 知っている … 48人 (4.8%)
2. 知らない … 952人 (94.8%)
3. 無回答 … 4人 (0.4%)

小中学生の比較

11月5日「世界津波の日」



小学生は「親から聞いた」、中学生は「テレビ、新聞で知った」が一番多かった。

「世界津波の日」は国連で日本をはじめ世界142か国が共同提案して2015年12月22日に採択された。11月5日が「世界津波の日」として制定されている。この日の周知度は10%を下回る。津波常襲地区において90%以上が知らない

という結果に唖然としている。

III. 東日本大震災の津波以外で宮古市に襲来した津波を知っていますか

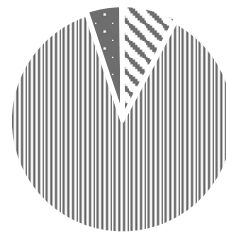
小学生



知っている |||| 知らない ■ 名前は何？ ■ 無回答

1. 知っている … 174人 (18.1%)
2. 知らない … 780人 (81.0%)
3. 無回答 … 9人 (0.9%)

中学生

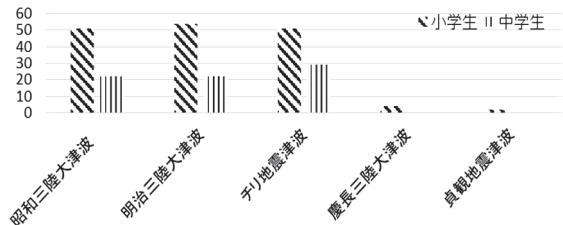


知っている |||| 知らない ■ 名前は何？ ■ 無回答

1. 知っている … 129人 (12.8%)
2. 知らない … 873人 (87.0%)
3. 無回答 … 2人 (0.2%)

小中学生の比較

宮古市に襲来した津波を知っていますか？



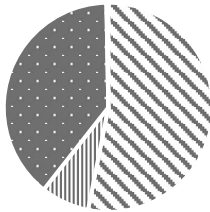
小学生の方が過去に襲来した津波を知っている結果である。チリ地震津波を知っている生徒が多かったのは想定外であった。

「知らない」との答えが80%以上あり、想定外の結果となった。津波被害の及ばない山村地域の

小中学校が含まれているとしても非常に残念な結果であり、津波常襲地区の津波防災教育の在り方に一石を投じている。

IV. 災害が発生した場合ボランティアとして参加したいと思いますか

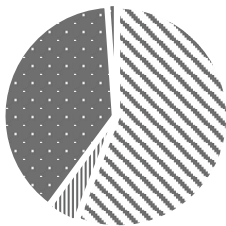
小学生



▨ 思う ▨▨▨ 思わない ▨▨ わからない ▨ 無回答

1. 思う … 511 人 (53.1%)
 2. 思わない … 72 人 (7.5%)
 3. わからない … 377 人 (39.1%)
- 無回答 … 3 人 (0.3%)

中学生



▨ 思う ▨▨▨ 思わない ▨▨ わからない ▨ 無回答

1. 思う … 561 人 (55.9%)
 2. 思わない … 42 人 (4.2%)
 3. わからない … 389 人 (38.4%)
- 無回答 … 11 人 (1.1%)

ボランティアとして災害被災者を支援しないとの回答は極めて少ない。この結果は宮古市の小中学生の優しい心の表れではないだろうか。宮古市の明るい未来が感じられる。

4. 考察と提言

アンケートの結果から I の宮古市の「津波防災都市宣言」は小中学生には浸透していないことが判った。他の市区町村に類のない貴重な宣言で

ある。小中学生のさらなる津波防災の取り組みを図って、小中学校の津波防災モデル地区を目指すことが望まれる。

II の「世界津波の日」は東日本大震災を機に11月5日と制定された。安政元年(1854年)11月5日、和歌山県で起きた大津波の避難にまつわる「稲むらの火」の逸話に由来している。2016年11月5日、「世界津波の日」の提唱者である二階俊博氏(当時自民党幹事長)は「子どもたちに伝えることが大事だ。津波を教える教師はどれだけいるか。いないなら補えばいい」と述べ、防災教育の充実を訴え注2)、政府は様々な取り組みを行ってきたが、それから5年が経過した今実施した本アンケートの結果から国民に浸透しているとは言い難い。

国連で世界 142 国が共同提案して採択、制定された「世界津波の日」が、津波常襲地域のこれまでの体験と教訓を発信、共有して世界の津波防災・減災に取り組み、世界平和につなげる。宮古市がその先駆けの地となることを望みたい。

III の過去に故郷に襲来した津波を知らない小中学生が 80%以上と多く、津波防災都市宣言を行った宮古市には厳しい結果となった。その一因を、この 10 年の防災教育・伝承活動が東日本大震災の津波一色であった結果にあると捉え、津波常襲地域の今後の津波防災教育・伝承活動が、その地の風土・歴史を踏まえた取り組みとなることを望む。

IV のボランティアとして参加したいと思いますかとの設問に対して、「思う」が 50%以上、「思わない」が 10%以下であり、宮古市の小中学生の優しい心、感謝の心、勇気の心が表された結果であると感じる。この純真な気持ちが「津波防災都市宣言」に反映されて、宮古市が津波防災に取り組み続ける先駆けの地となることを期待してやまない。

5. まとめ

改めて宣言し直した宮古市の津波防災都市宣言の周知度を計り、津波防災意識の向上に資する宣

言とすること、今後の活動のスタートのための指標とすることを目的に宮古市の未来を担う小中学生にアンケート調査を実施した。その結果をまとめると、以下ようになる。

設問Ⅰ. 都市宣言の周知度は10%以下で名ばかりと言わざるを得ない結果で、宮古市の都市宣言のあり方に疑問を感じる結果となった。主目的とした津波防災都市宣言に謳われている「市民一人ひとりが津波防災に取り組み続ける先駆けの地となる」には、小中学生の津波防災教育の一層の充実が求められる。

設問Ⅱ. 11月5日世界津波の日の周知度も10%以下と低く、東日本大震災による甚大な津波被害を踏まえ、我が国が提案して制定された国際デーとは思えないものであった。津波で国際貢献できる「世界津波の日」として周知し、世界の津波対策の推進を図る先駆けの地を目指すことを望む。

設問Ⅲ. 過去に宮古市に襲来した津波の周知度はⅠ. Ⅱの設問の周知度に比べれば10%以上と幾分多いが、津波常襲地域の周知度としては非常に残念な結果であった。過去の津波の特徴を知ることには津波防災・減災には極めて重要なことである。津波常襲地区では、歴史・風土をしっかりと学んで津波対策とすることが望まれる。

設問Ⅳ. ボランティア参加の意志の有無について、四つの設問の中では最も希望の持てる結果であった。宮古市小中学生の心根が感じられ、設問Ⅰ. Ⅱ. Ⅲの周知度も取り組み次第でアップ出来ると思われる。

当法人は、このアンケート結果を基に宮古市の「津波防災都市宣言」が世界の「津波防災都市宣言」として周知され、津波防災に取り組み続ける先駆けの地となるべく活動を実施する。併せて、「世界津波の日」の目的とともに広く津波対策についての理解と関心を深めるグローバルな取り組みで国際貢献につなげていくことを目指したい。また、アンケートの結果を今後の津波に関する活動の評価のための指標としたい。

最後に、「津波防災都市宣言」の礎に、宮古市の小中学校の津波に関する意識向上の取り組みがあることを期待したい。

(NPO 法人津波太郎)

謝辞

本アンケート実施にあたり、宮古市教育委員会（教育長 伊藤晃二氏）に多大なるご理解、ご協力を頂きました。深く感謝致します。

注

- 1) アンケートでは、設問Ⅰにおいて、健康都市宣言・津波防災都市宣言・サーモンランド宣言の3つを挙げたが、宮古市気候非常事態宣言（2020年10月9日告示）もあり、宮古市の都市宣言は4つである。
- 2) 二階俊博幹事長が熱弁 津波防災「自民党挙げてチャレンジ」産経新聞ニュースサイトより引用。
<https://www.sankei.com> 2016/11/5 版